

SAKURA

2010.12 December No. 225

CONTENTS

- 02 / 国際ビジネス研究室・刑事司法研究室を新設
模擬裁判
- 03 / 第3回ノースアジア大学文学賞 授賞式・記念コンサート
- 04 / 栄養短大:卒業試験
魅力アップ支援事業
- 05 / 看護福祉大:逢星祭
- 06 / 明桜高校:オープンスクール・明桜祭
- 07 / 幼稚園:園祭・運動会
- 08 / インフォメーション



3部リーグで優勝した大学ラグビー部
来年から2部での活躍が期待される

学生の新たな可能性を引き出す

「国際ビジネス」、「刑事司法」
2つの研究室を新設

国際ビジネス研究室

国内外で活躍できる人材を養成

現在は、経済や政治、社会が緊密に結びついて、世界的な規模の中で昼夜を問わず人・情報などが絶え間なく動いており、日本、そして秋田もその影響を受けています。

「国際ビジネス研究室」では、世界的な視野に立って、ビジネスセンス、語学力などを高めてビジネスや諸問題に対応できる人材の養成を目標としています。

学生たちは、経済、経営、法律、観光に関連することから、さらに深く学びたい内容を選んでもらい、教員がそれぞれの専門分野を生かして学生一人ひとりに合わせた支援を行います。



刑事司法研究室

経済・法律の勉強を生かし、専門職公務員を養成

「刑事司法研究室」は、経済や法律の高い専門知識が必要とされる公務員（裁判所事務官・種、国税専門官、労働基準監督官、法務教官など）を志望する学生の支援を目的に設立しました。

この研究室では、一步踏み込んで専門性の高い内容を両学部の教員がきめ細かく学生に指導・支援を行うほか、国家試験等センターが開講している公務員試験対策講座や行



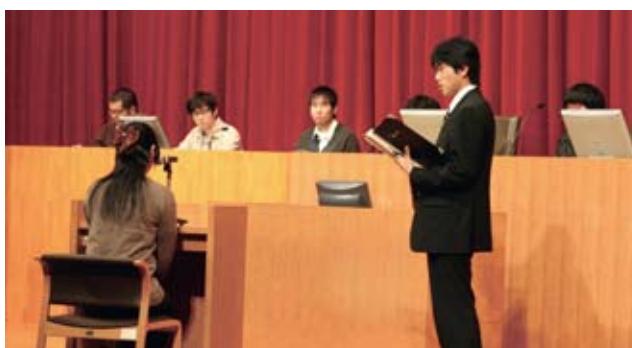
政・警察研究室、司法研究室と連携し、採用試験の合格率を高めていきます。

また、所属する学生のほかにも、専門的に経済・法律の勉強をしたいと希望する学生に講座を開放し、知識を広める取り組みも行います。

刑事司法研究室に所属する学生の抱負

「目標とする国税専門官に合格するため、専門試験の対策を考えて入室しました。できて間もない研究室ですが、同室の学生たちと知識を高めあって、目標を達成できるように努力したいと思います」

自分が裁判員ならどう判断するか — 裁判劇を通して考える —



「模擬裁判に参加して、裁判員に選ばれた時にどのような評議をしたらよいのか勉強になりました。特に、今回の事件のように殺人か嘱託殺人かという難しい判断をしなければならない場合には、自分を被告人の立場に置いて、その心境について考えてみることが必要だと感じました」と語るのは、検察官役を務めた山田篤さん(法学部1年)です。

10月23日、古田記念講堂で、本学法学部と模擬裁判実行委員会主催の、第19回模擬裁判が行われました。

今年は、自宅で母を介護してきた被告が、母から「もう疲れた。殺してくれ」と言われ、母を殺害してしまうという事件で、「殺人か嘱託殺人か」をテーマに、昨年5月から始まった裁判員裁判の形式で行われました。

裁判官と裁判員が話し合って、量刑などを決める評議の

場面では、裁判官が一般市民である裁判員に丁寧に説明する様子や、他の人の意見を聞いて迷い、意見を変える裁判員の様子も表現されました。

裁判劇の最後には、休憩中に取ったアンケートの結果を発表。劇中では真意の嘱託があつたと誤認した嘱託殺人で懲役3年、執行猶予4年となりました。アンケートでも同様に、嘱託殺人で執行猶予の付いた1年から3年の刑が妥当と考える人が最も多いという結果になりました。

来年に向けて山田さんは、「今年はメンバーの都合で全員そろっての練習がなかなかできませんでしたが、来年は練習量を確保して本番に臨みたいと思っています」と話してくれました。



第3回 ノースアジア大学文学賞 授賞式・記念コンサート

第3回目ノースアジア大学文学賞の授賞式・記念コンサートが11月6日、本学古田記念講堂で行われ、下間佳奈さんの「この世で一番強いと思われる人々について」=高校生の部門 エッセイ(自由作品)の部、佐藤悠さんの「かささぎの恋人」=同部門短編小説の部が最優秀賞を受賞し、表彰されました。

主催者を代表して小泉健理事長が、来場の方々、選考委員や関係者へのお礼を述べた後、「この文学賞も昨年より成長し、若木になったかと思います。文化県秋田にあって、この文学賞が文化活動の原動力になって欲しい」とあいさつしました。

文学賞の選考委員を務めた内館牧子氏は「(エッセイについては)今回応募いただいた作品には、作者の気持ちがよく滲み出ていると感じました。しかし、今後も書き続けて人に読んでもらうためには、最低限のテクニックも必要です。文章を削る作業、構成を考え直して、もっと面白い作品を読ませていただきたいと思います」と講評し、同じく選考委員を務めた石川好氏は「時代を映しているのか、応募作品の中には死、病という題材のものが多かったように感じます。これとは反対に、突き抜けるような作品が出てきても、大変面白いように思います」と述べました。

授賞式に続いて行われた記念コンサートでは、テノール歌手小林彰英氏とピアニスト腰塚賢二氏による、「鐘が鳴ります」、歌劇「トスカ」より“星は光りぬ”などの演奏のほか、ノースアジア大学吹奏楽団・明桜高等学校吹奏楽部が、歌劇「イーゴリ公」より“ダッタン人の踊り”などを演奏し、受賞者を祝福しました。



【高校生の部門】

エッセイ(自由作品)の部

応募数 116 作品

最優秀賞

この世で一番強いと思われる人々について	下間 佳奈	秋田県秋田市
---------------------	-------	--------

優秀賞

母という存在	二木 菜月	秋田県秋田市
雨にも負けず	藤澤 太朗	秋田県秋田市
真理がわれらを自由にする	新屋敷 元	秋田県秋田市

内館牧子特別賞

ことば	武田 淳平	秋田県秋田市
-----	-------	--------

石川好特別賞

真実を見失わない目	齊藤 美穂	秋田県秋田市
-----------	-------	--------

短編小説の部

応募数 58 作品

最優秀賞

かささぎの恋人	佐藤 悠	秋田県横手市
---------	------	--------

優秀賞

刹那	市岡みづき	東京都三鷹市
連鎖	相川 拓志	秋田県横手市

学校賞

秋田県立横手高等学校		
------------	--	--

※高校の所在地を記載しています。

【大学生・一般の部門】

エッセイ(自由作品)の部

応募数 207 作品

優秀賞

K君の思い出	神馬せつを	石川県金沢市
ミカン畑の思い出	黒須 祐子	福岡県糸島市
役場新人	西 直人	三重県津市

内館牧子特別賞

「厳しさ」という「優しさ」	櫻庭 結	秋田県秋田市
---------------	------	--------

石川 好特別賞

時代の同船者	伊藤喜代子	愛知県岩倉市
--------	-------	--------

※大学生・一般の部門 エッセイ(自由作品)の部は、最優秀賞の該当作品なし。



栄養士の基礎知識を問う

卒業試験で教育目標の達成度を確認

栄養短期大学



平成23年3月に卒業を予定している秋田栄養短期大学の2年生を対象に卒業試験が行われました。

この試験は、栄養学科の2年生全員が参加し、緊張の面持ちで試験を受けていました。

終了後、この試験を受けた学生から話を聞いたところ、「苦手な分野を中心に試験対策の勉強をしたこともあって、その問題にも解答することができました。卒業試験は、普段の授業から勉強をしっかりと行なうことが大切です」と来年試験を受ける後輩へのアドバイスを含めて話してくれました。

また、廣川忠男栄養学科長は「栄養学科では、社会に対する卒業生の質の保証という点から、平成20年度より卒業試験を実施しています。本学は、学生の到達目標の一つに

『各科目の基礎的な事項について理解するとともに、他者にも理解できるように説明できる』ことを掲げており、論述形式の卒業試験は、この目標にどれだけ達成しているかを確認するものになっています。将来的には、知識に限らず技能や態度を含めて栄養士として総合的な力がどの程度身に付いているのかを確認できる内容へと改善を図り、本学を卒業する栄養士の質をさらに高めていきたいと考えています」と今後の卒業試験について話しました。



秋田県「私大・短大魅力アップ支援事業」に2事業が採択

秋田県が県内の看護福祉系を除いた私立大学・短期大学を対象に今年度から創設した「私大・短大魅力アップ支援事業」に、ノースアジア大学から2件の事業が採択されました。一つはキャリアセンターが行う「秋田で育む地域連携・人間力向上キャリア教育プログラム」で、もう一つは観光学科による「秋田版オルタナティブツーリズムの創出」です。この事業は、特色ある教育プログラムの導入、積極的な地域貢献活動の推進など、個性的・魅力的な教育を実現するための取り組みに対して補助するものです。

秋田で育む地域連携・人間力向上 キャリア教育プログラム

11月17日の講演会と、「基礎力測定の実施」を皮切りに、キャリア教育プログラムが開始されました。

「基礎力測定の実施」には、大学1年生～3年生が参加し、基礎力とは、どのような環境でも力強く生き、自分が思い描くことを遂行する力を指す、という説明を受けた後、実際に自分の基礎力をチェックし、重点的に強化したい基礎力を



伸ばすための行動計画を立てました。

参加した経済学科2年の女子学生は、「キャリアサポートの授業で、基礎力という言葉を聞いたことがありましたが、求められ



た資質が思ったよりも多いことに驚きました。自分の改善点を見つけることができたので今後の参考になりました」と感想を話してくれました。

また、11月17日、18日の両日には、1年生から3年生を対象に「企業が求めている人材を理解して自分を伝えきる面接方法を身につけよう」と題して、社会保険労務士・キャリアカウンセラーの鈴木郁子氏が講演。

企業が求める人材について解説し、それを踏まえて、大学での勉強で基礎学力をしっかりと身に付け、面接では自分の言葉で自分の考えを話して欲しいと説明しました。

両日とも受講者の中から3名ずつ、希望する企業・団体での面接試験を想定した模擬面接を受けました。この模擬面接の様子を例に挙げて、新聞を毎日読むこと、読書すること、企業について調べることなどの大切さを説明。講演会終了後には、学生が個別に講師に質問する姿が見られました。

模擬面接を受けた観光学科3年の男子学生は、「採用試験を受けようと考えている企業について事前に調べていたのですが、緊張して実際に質問されたときに、思うように話

“まごころを君に”をテーマに地域の方々と交流を深める

看護福祉大学

10月23日、24日の両日、天候に恵まれた中で秋田看護福祉大学「逢星祭」を開催し、地域の方々などが大学を訪れていました。

逢星祭のオープニングのあいさつで田中禮子学長は「ご来場いただいた皆様、ありがとうございます。この機会に、学生たちとの交流を深めていただきたいと思います。学生たちは、今回のテーマにあるように、まごころを込めて地域の皆様に応対してください」と述べました。

逢星祭に来場いただいた方たちは、模擬店や学生の学習成果の発表、看護・介護の体験などの催しに足をとめて学生たちと交流をしていました。



せませんでした。これから面接試験当日までに、緊張せずに自分の良い点をアピールできるように準備したいと思います」と話してくれました。

秋田版オルタナティブツーリズムの創出 —学生の感性を引き出す実践的な教育を目指して—

観光学科では、本学と連携協定を結んでいる大館市、鹿角市、男鹿市、湯沢市の4つの市に向けて、地域活性化のための取り組みを学生の感性、そして観光の視点から提案します。この取り組みが学生たちにもたらす教育の効果と、周遊型の観光からの脱却を図り、秋田版オルタナティブツーリズムを創出することを目標にしています。

9月中旬から始まったこの取り組みは、教員と学生による4つの市での現地調査と、先進地域と比較研究（フィールドワーク）した内容を取りまとめて各地でワークショップや報告会を行う予定です。

現在、進行中の調査研究は下記の4項目です。

- 大館市『ドッグツーリズムと「癒し」』
- 鹿角市『県北温泉地の魅力アップ』
- 男鹿市『男鹿半島の魅力を再発見』
- 湯沢市『秋田型産業観光の構築』

11月30日、学生たちが選んだテーマを基に、各市で行っている調査・研究の進行状況などを紹介する中間報告会が行われ、参加した学生・教員からの質疑、提案が多数出される活発な会となりました。

報告会では石塚友寛氏（秋田県観光連盟 専務理事）が、各テーマごとに、各観光地が現在の状況になった原因や背景、比較対照を行う地域との調査方法などに対して提言をした

ほか、「自分たちが疑問に思ったことに対するもう1歩・2歩踏み込んでしっかりと考えて欲しい。それがより良い結果を生むことになるでしょう」と今後の学生たちへの期待などを話しました。

終了後は、提言をいただいた石塚氏からさらにアドバイスをいただく学生の姿もありました。

オルタナティブツーリズムとは

高度経済成長期の1960年代後半以降、レジャーと観光が一般に普及しました。いわゆるマスツーリズムと呼ばれる観光の形態が一般化しましたが、観光開発による環境への影響が問題となり、また時代の変化とともに観光のニーズも変化してきました。この需要に応えるための、「もうひとつの観光」として登場した観光を「オルタナティブツーリズム」といい、具体的には「みる」だけではなくさまざまな「体験」を含んだ、グリーンツーリズムやエコツーリズムなどといった観光のこと指します。



明桜高校の日常を紹介

オープンスクール開催

9月29日、明桜高校を会場に、中学生とその保護者・教員を対象にオープンスクールを開催しました。

オープンスクールでは、映像で学校の特色を紹介、カリキュラム・入試の説明のほか、参加した生徒・保護者が教室の中に入り、実際の授業や校内施設を見学しました。校内の見学後は、生徒による高校生活への質問の回答や吹奏楽部のミニコンサート、部活動紹介が行われました。

見学の合間には中庭のオープンカフェで休憩をし、参加者同士で感想を話し合う姿も見られました。

「事前アンケートへの回答」では、あらかじめ中学生や保護者から質問を受付し、在校生や教員が回答。「明桜高校の特色は」、「通学手段について教えてください」といった質

間に、生徒たちが自分の言葉で説明しました。引き続き、吹奏楽部によるミニコンサートが行われ、参加者は部員たちと一緒に手拍子をして盛



り上りました。その後、部活動ごとに分かれての体験入部が行われ、参加した中学生たちは、先輩の練習風景を見ながら監督から説明を受けたり、明桜生と一緒に練習を行うなどしました。

普段の明桜高校の様子を、参加者の皆さんに十分に御覧いただきました。



一人ひとりが花を咲かせる

明桜祭 開催

「生徒一人ひとりの意見をなるべく多く反映させ、来場する方や生徒皆が楽しめる学園祭にしたいと考えました」と話す、明桜高校生徒会副会長の松本昂也さん(2年)。

10月22日・23日の二日間に渡って行われた明桜祭は、生徒一人ひとりが花を咲かせるように活躍する楽しい学校祭にしようと、「彩～咲き誇れ明桜の花」をテーマに掲げま



した。吹奏楽部やチアリーディング部の発表、各種コンテストやライブ演奏などが行われ、生き生きとしたパフォーマンスで観客を楽しませました。また、文化部の活動や授業の成果のほか、各クラスで作成した学級旗などを展示しました。

松本さんは、「昨年の明桜祭終了後に、生徒からアンケートを取って改善点を見つけ出し、今年も事前にアンケートを取り、出店やイベント、テーマなど生徒一人ひとりから意見を聞きました。今年は出店の数やクラス展示も増えて、学校全体で盛り上がることができ、保護者からも、昨年よりクラス展示の配置が良くなつたという声をいただきました。同時に改善点も見つかったので、来年はもっと良いものをお見せできるように工夫したいと考えています」と話してくれました。



練習の成果を発表しました

11月3日、のびのび幼稚園・保育園で園祭が行われ、園児たちがお遊戯や歌、劇などを発表しました。保育園児たちのほのぼのとしたかわいらしい動きや、幼稚園児たちの元気いっぱいの歌やダンスに、保護者の皆さんから暖かい拍手が送られました。



遊戯の曲も、園児たちの希望を取り入れ、年長児の劇「かぐやひめ」では、子どもたちが自分で考えた動きなど、園児たちの工夫を見ていただくことができました。



さくら幼稚園・のびのび幼稚園で園祭

11月13日にはさくら幼稚園で園祭が行われました。保育室や廊下は、園児たちが描いた絵や工作できれいに飾られ、見に来てくれたお家の人たちをお出迎えしました。オペレッタ「ねずみの嫁入り」では、役ごとに、園児が得意なことを披露して会場を沸かせました。

園児たち一人ひとりが役の内容を理解して、「自分はこの役をやってみたい」と意欲的に取り組んできた発表に、客席から大きな拍手が送られました。



秋晴れの下、みんな元気に運動会

さくら幼稚園

9月18日、まだ少し汗ばむ陽気の中、さくら幼稚園の運動会が開催されました。

午前の部の親子競技「友達欲しいなオオカミくん」では、オオカミのお面をつけたお父さん・お母さんと、出たサイコロの目の動物に扮した園児が一緒にゴールまで走りました。なかなか上手くお面を付けられずにあわてる場面もありましたが、親子で協力してうさぎなどのかわいい動物に変身。園児たちは、オオカミ君の友達になれたようです。

また、午後の部では、全園児が参加して「よっちょれ」が行われ、園児が自分で作ったペットボトルの楽器を持って、元気に踊りました。撮影していたお父さん・お母さんも、園児

のびのび幼稚園



たちに誘われて踊りに参加。最後まで笑顔の絶えない運動会となりました。



9月18日、お天気にも恵まれて、のびのび幼稚園・保育園の運動会が行われました。

年長さんを中心に関園児が参加した「よっちょれ」で開幕。みんな元気に踊りました。最初の競技のかけっこ後は親子競技です。お父さん・お母さんと一緒におまわりさんや探検家に変身。平均台も上手に渡りました。保護者の皆さんの大玉運び、祖父母の皆さんのがんばりのほか、卒園児や未就園児のお友達も競技に参加してくれました。最後に年長さんがマーチングと組体操を披露し、おわりの会では年長さんが一人ひとり、園長先生からトロフィーをいただきました。みんな元気に走ったり笑ったり、力いっぱい頑張った一日でした。

のびのび幼稚園 平成23年度園児募集

ノースアジア大学附属のびのび幼稚園では、平成23年度新入園児を募集しています。

園児募集についての詳細は次の通りです。

募集人数

- 1年保育（5歳児）…10名 ●3年保育（3歳児）…70名
- 2年保育（4歳児）…40名 ●満3歳児保育……若干名

のびのび幼稚園所定の願書に必要事項を記入の上、選考料2,000円を添えて提出してください。面接と身体検査終了後に入園許可証をお渡しいたします。

園の特色

のびのび幼稚園では、広いホールや園庭で、0～5歳児の子どもたちが一緒に生活をしています。また、英語・体操・水泳・論語などの様々な経験を通じて、園児の興味・関心を育てています。心身の大切な要素である食に配慮し、食器は陶磁器を使用、玄米や野菜を中心とした自園給食を実施。認定子ども園として、小学校や地域と連携し、保護者の子育ての悩みが解消できるよう支援を行っています。その他、日曜・祝日を除き、午後7時まで専任の保育者による預かり保育も行っております。



のびのび保育園 募集人数(随時)

- 1年保育（2歳児）……………若干名
- 2年保育（1歳児）……………10名
- 3年保育（0歳児）……………10名

【お申し込み・お問い合わせ】

認定こども園 ノースアジア大学附属のびのび幼稚園・保育園
TEL 018-823-4540 FAX 018-863-4918



皆様のご参加をお待ちしています。いずれも受講は無料です。お申し込み・お問い合わせは下記の【問い合わせ先】まで。

■ 第4回観光学シンポジウム 「観光振興と人材育成」 基調講演／パネルディスカッション

【日時】 平成23年1月8日(土) 13:00～15:00 開場12:30

【会場】 ノースアジア大学 40周年記念館2階271教場

【コーディネーター】

小泉 健氏 (本学理事長・学長)

【講師・パネリスト】

石川 好氏 (ノンフィクション作家・評論家
本学総合研究センター客員教授)

【パネリスト】

穂積 志氏 (秋田市長)

木内 茂晴氏 (読売新聞東京本社秋田支局長)

・本学総合研究センター客員准教授)

■ 民俗学シンポジウム

「年中行事を探る－村や町の事例から－」

【日時】 平成23年2月9日(水) 13:00～15:45 開場12:30

【会場】 明徳館ビル2階 カレッジプラザ講堂

【講師・コーディネーター】

鎌田 幸男氏 (本学教養部長・雪国民俗館名譽館長)

【講師】

斎藤壽胤氏 (秋田県民俗学会副会長)

石郷岡千鶴子氏 (秋田県民俗学会事務局長)

渡部景俊氏 (秋田県民俗学会会員・

秋田地名研究会会长)

【問い合わせ先】 ノースアジア大学 総合研究センター TEL 018-836-6592・4531 FAX 018-836-6530